

1. 開催目的

県教育委員会では、地域とともにある学校づくりを進めるため、平成25年度より信州型コミュニティスクールの導入を推進し、平成29年度には、すべての公立小中学校で導入された。

これまでに「地域学校協働活動」が盛んになるなど一定の成果がある一方で、「学校運営参画」では、その取組の程度に差が見受けられる。

また、コロナ禍による活動の減少や地域ボランティアの高齢化・固定化の進行など、今後の活動の持続への課題も生じている。

そこで、「学校運営参画」と「地域学校協働活動」を一体的に推進するため、コミュニティスクール(CS)に関係する方々による意見交換を行い、今後の方向性を検討する会議を開催する(第1回は令和5年度教育委員会政策対話として実施)。



2. 開催概要

(1)出席者(50音順、敬称略)

- ・上沼 昭彦 飯田市公民館 副館長
- ・河西 哲也 松本市立梓川中学校 学校長
- ・塩原 雅由 大町市教育委員会 学校教育課 学校教育指導主事
- ・城村 義人 長野県PTA連合会 副会長
- ・傳田 智子 上伊那広域連合 地域振興課
- ・早坂 淳(座長) 公立大学法人長野大学 教授
- ・伴 美佐子 上田市立北小学校コーディネーター
- ・堀田 茂樹 長野市立松ヶ丘小学校 教頭

(2)回数

令和5年度から6年度にかけて5回程度

(3)議論の進め方

CSは何のためにあるのか(WHY) ⇒ 何をするのか(WHAT) ⇒ どう進めるのか(HOW)
といった本質的な問いを整理

3. 第1回の主な議論(令和6年1月25日開催)

「学校運営参画」とは

- ・「参加」に比べて「参画」はより主体的な関わり。学校運営に地域住民が自分ごととして関わること
- ・地域から子ども達へのプラスのフィードバックが、子ども達の自尊感情を高める

学校運営参画の実情

- ・学校としては、どの部分まで地域に参画いただくかには難しさがある
- ・学校、地域ともに、学校運営参画がわからないので、不安であり、負担である

参画をどう進めるか

- ・学校の必要感だけでなく、地域の必要感と重ねることが必要
- ・地域も学校も家庭もそれぞれ価値観が異なる。ビジョンを共有する場をつくる